

早期体験実習 1 c (臨床科見学実習)

【単位数:0.5単位, 授業25コマ】

1 科目責任者

早稲田勝久 教授(医学教育センター)

科目担当者

森下 啓明 准教授(シミュレーションセンター)

2 教育目標

(1) ねらい(I-1-c, I-2-c, I-3-c, I-4-c, I-5-c, I-6-c, I-11-c, I-12-c, I-13-c, I-14-c, I-15-c, V-1-c)

- ① 医師の業務内容を実際に見学し、本学のコンピテンシーの「医師としての価値観・態度・姿勢」、「チーム医療・医療安全」、「地域社会へ貢献」を学び、今後の学習課題を考えられるようになる。
- ② 医療は看護師をはじめ多職種連携の上成り立っていることを実習したことに加え、医師の指導の下に医療を行う上での多職種連携の理解を深める。
- ③ 早期に医師としての思考・人間性・倫理観を身につける契機とする。

(2) 学修目標

- ① 臨床医の患者さんへの対応・診断・検査などを体験する。
- ② 患者さんの苦痛・不安を理解し、共感できる心を養う。
- ③ 医療における連携・協力を一層理解する。
- ④ 医師の診療、思考、決断、探求心を疑似体験して、その考えを共有する。
- ⑤ 臨床医学への興味を深め、自己の目標点と到達法を展望する。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
レポート	○	60%	事前課題・事後課題を評価する(プロフィール、挨拶状、お礼状を含む)。課題の意図にあった内容であること。実習レポート、SEAは体験に基づいた自己の課題を明確に書き表していること。
態度	○	40%	3日間の実習の評価。遅刻、身だしなみ、実習参加態度について、実習部署指導者による他者評価を実施する。

出席: 実習を修得するためには、欠席をしてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

課題・レポートを課す。

実習を欠席した場合は、面談後、補習又は追加レポートを課す。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

全学生を対象に実習最終日の実習振り返り時に、フィードバックを行う。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
元気ホスピタル 最善の医療をめざして 2018年	愛知医科 大学病院	バリューメディカル	本学の診療科、コ・メディカル部署の解説をしている。

6 準備学習（予習・復習）

1日目のオリエンテーションの際に、実習先の病棟の診療科・その特性などについて事前学習をするので、関連する資料を集めておく(0.5時間/回)。

実習に行く前に、早期体験実習1aで学修した内容を復習する(1日あたり1時間)。

7 授業計画

（1） 講義の方法

1日目に実習オリエンテーションを施行。2日目から4日目は割り当てられた部署にて実習(シャドーイング)を行い、チーム医療を体験する(病棟実習:2日間、学外実習:1日)。最終日は実習の振り返りを行う。

（2） 講義の内容

医療は、様々な職種のスタッフが連携・協力して成り立っていることを体験し、その医療の現場を通して「医療者の姿」を学ぶ。